

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>

稲作農家 各位

山武稲作情報 第1報(2016年5月25日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

山武地域の生育状況

4月中旬以降の気温は高く推移したため、全体的に生育は順調で、草丈はやや短いものの、茎数は多い傾向にあります。ただし、苗質が悪かったほ場や深水のほ場、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策として水を落としたほ場では生育が停滞しており、ほ場間差が大きくなっています。

参考 生育調査ほの調査結果（調査日 5月20日）

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)
ふさ おとめ	山武市 (白幡)	28	4/30	6.2	24.0	4.2	93.2
		27	4/27	5.8	26.7	10.8	190.1
		平年値	4/27	5.7	25.6	7.9	131.6
ふさ こがね	山武市 (成東)	28	4/26	6.3	25.0	8.0	246.1
		27	5/1	6.1	25.3	11.5	212.8
		平年値	4/30	5.1	23.0	7.0	128.9
コシ ヒカリ	東金市 (北之 幸谷)	28	4/22	6.4	32.9	14.5	259.6
		27	4/25	6.4	37.5	11.1	212.0
		平年値	4/23	5.7	32.2	6.9	119.5
コシヒ カリ	山武市 (成東)	28	4/26	5.7	25.0	8.9	164.7
		27	5/1	5.7	26.5	9.5	175.8
		平年値	4/30	4.9	26.6	6.2	114.1
ふさの もち	山武市 (成東)	28	5/10	3.7	18.0	4.1	75.9
		27	5/11	3.9	16.4	4.0	74.0
		平年値	5/9	4.0	18.4	4.4	80.5

平年値は過去10年間（東金市コシヒカリは9年間、ふさのちは6年間）の平均値。

お知らせ

田植えが終わってからも飼料用米に変えることができます。飼料用米の作付にご協力いただける方は、お近くの市町（地域農業再生協議会）や山武農業事務所までご連絡ください。

【問い合わせ先】

山武農業事務所 企画振興課（制度に関すること）0475-54-1122

改良普及課（技術に関すること）0475-54-0226

郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXへ切り替えを進めています。電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 水鳥 k.mztr@pref.chiba.lg.jp、0475-54-0226（電話）

今後の管理

1 中干し開始時期と方法

目標茎数の80%（「別添水稻の生育状況と当面の対策」表2参照）が確保されたら中干しを開始します。中干しの強さは、田面に亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まないくらいに土壌を固める程度とします。中干しは穂肥えの時期まで続けることが望ましいですが、梅雨期の降水量が少なく土壌が乾き過ぎる場合は、中干しを中断し灌がいをお願いします。灌がいは、灌がい水が田面全体に行きわたる程度の浅水とし、長期間湛水しないように管理します。

2 イネミスゾウムシの防除（今年度の発生予報「やや多い」）

イネミスゾウムシの成虫は葉を食害し、幼虫は根を食害します。



イネミスゾウムシ成虫

薬剤防除が必要となる基準（以下のどちらかに当てはまる場合）

- ・ 移植 10 日後ごろに成虫数が 2～3 株に 1 頭
- ・ 移植 10 日後以降に成虫が多飛来した時

防除剤：シクロパック粒剤、トレボン粒剤等



田植え後から成虫はほ場に侵入し葉を食べる（4月中旬～6月下旬）



葉鞘の中に卵を産み、孵化した幼虫は根を食べる（5月上旬～）



新成虫が発生（7月中旬～）



山林や雑草地で越冬（8月下旬～4月上旬）

食害が多いと草丈が伸びず、分けつが抑制され、株が容易に抜けやすくなる。

3 イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）の防除（今年度の発生予報「やや多い」）

イネドロオイムシは幼虫・成虫ともに葉を食害します。特に幼虫による被害が大きくなります。

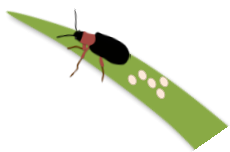


イネドロオイムシ成虫

薬剤防除が必要となる基準（以下のどちらかに当てはまる場合）

- ・ 5月中旬ごろの成虫数が 10 株に 2 頭以上
- ・ 5月下旬ごろの卵塊数が 1 株に 1 卵塊以上の場合

防除剤：シクロパック粒剤、トレボン粒剤、パダン粉剤 DL 等



成虫がほ場に侵入し産卵（5月上旬～7月中旬）



幼虫が葉を食害（6月～7月）



新成虫が発生（7月上旬～）



雑草地で越冬（8月～4月）

食害が多いと草丈が短くなり、茎数や穂数が減る。

4 スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の対策

【在来種（マルタニシ）との見分け方】

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）

柔らかい茎や葉を好むため、移植直後の稲や分げつを食べ、稲の生育や収量に大きな被害をもたらします。

卵をつぶしたり、冬に数回耕うんし貝を破碎することで、被害を軽減させましょう。

マルタニシ

日本在来種で、水田の中の藻類などを食べています。卵は産まずに、胎内で卵を孵化させ稚貝となって出てきます。稲に被害を与えることはありません。



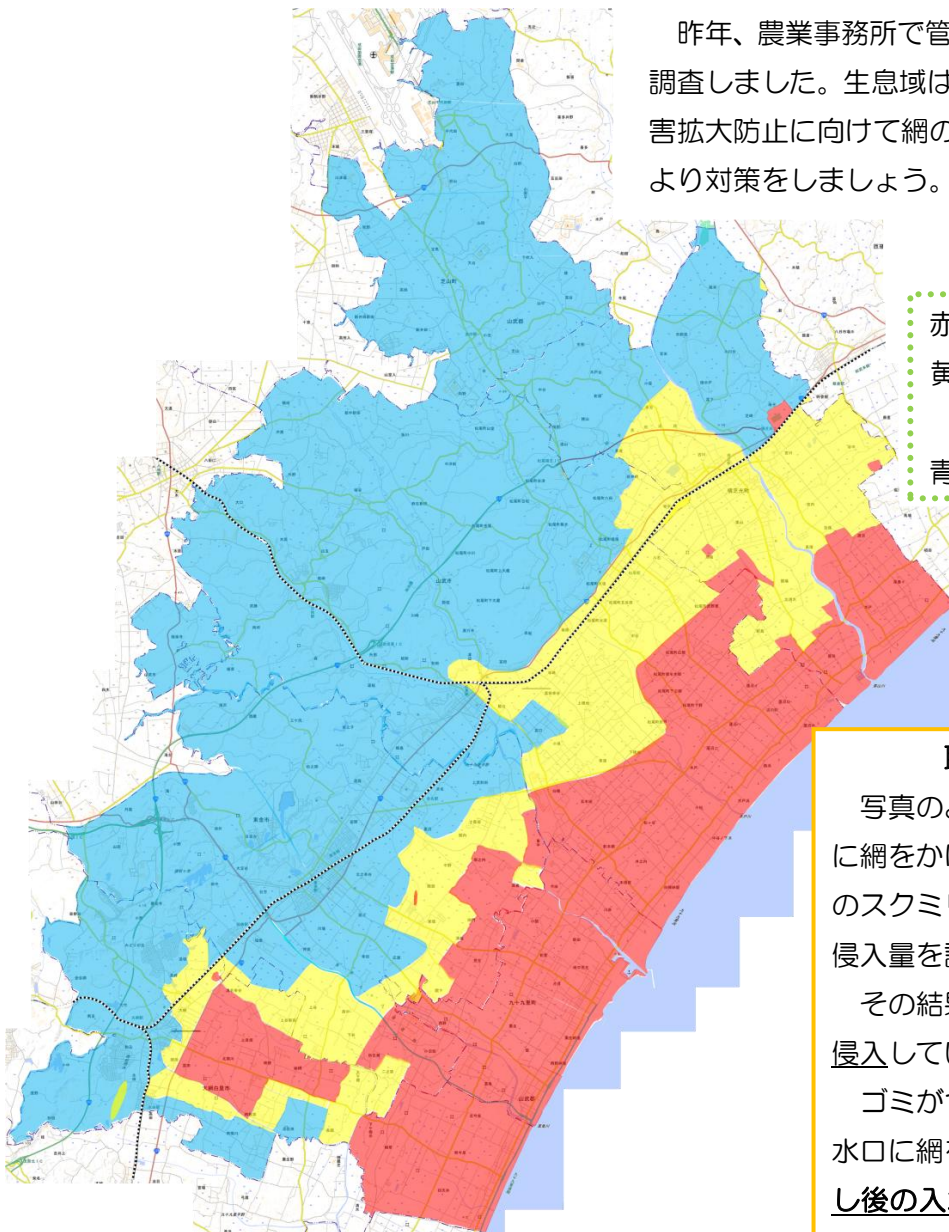
螺旋下部（開口部）の層が広いのが特徴で、全体的に丸い。

螺旋上部の層が広く、全体的に細長い。



【山武地域スクミリングガイ生息 MAP】

昨年、農業事務所で管内のスクミリングガイの生息域を調査しました。生息域は年々拡大傾向にありますので、被害拡大防止に向けて網の設置や薬剤防除、卵をつぶす等により対策をしましょう。



赤：要防除地域

黄：生息しているが、防除は必須ではない地域

青：生息未確認地域

取水口に網を設置しましょう！

写真のように取水口に網をかけ、用水からのスクミリングガイの侵入量を調べました。



その結果、代かき前と中干し後の入水時に多く侵入していることがわかりました。

ゴミがつまる等の問題により、栽培期間中に取水口に網を設置できない場合は、代かき前と中干し後の入水時のみでも網を設置し侵入を防ぎましょう。

次回の情報は6月3日（金）に発行する予定です。